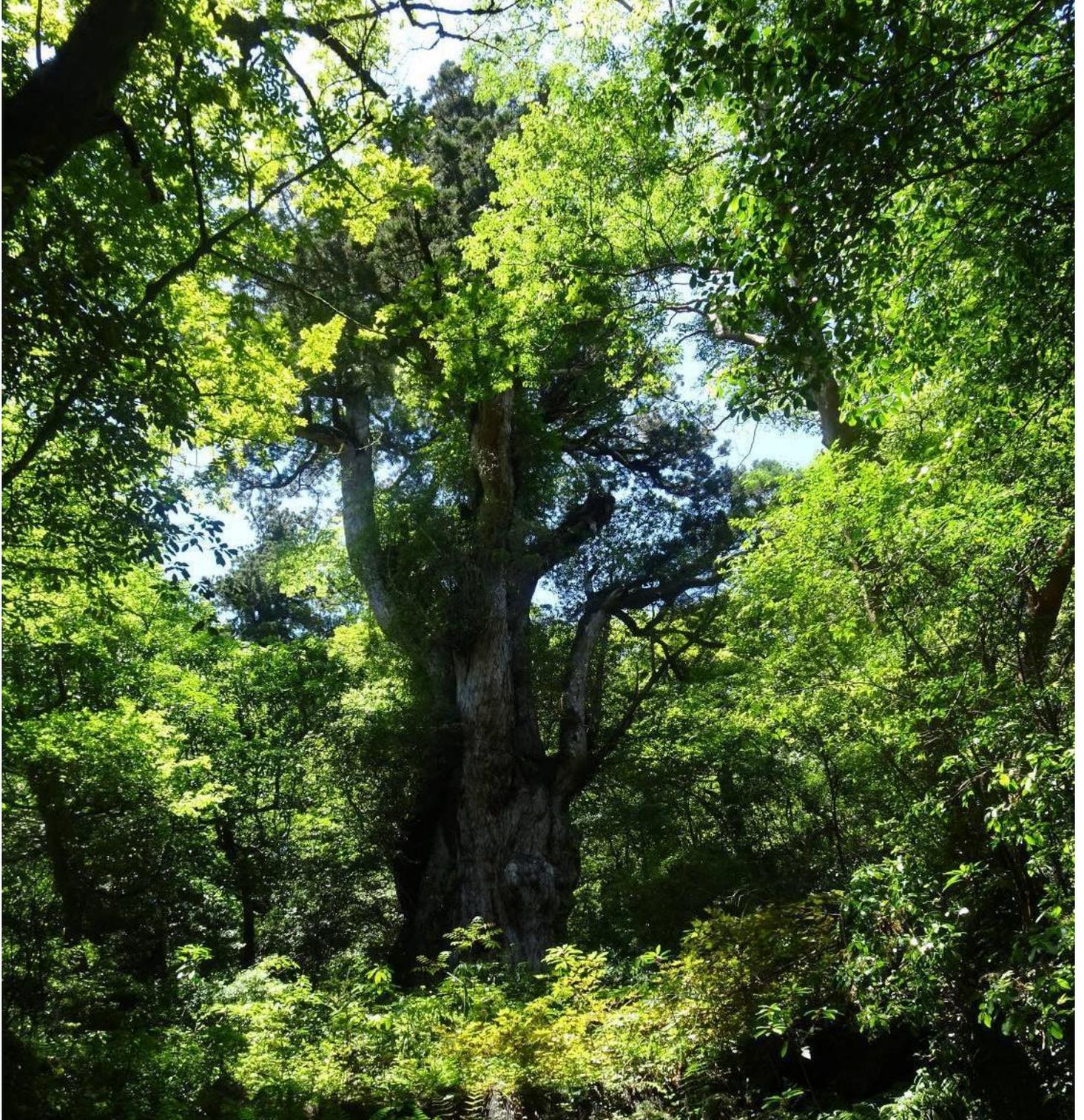


悠久の時流れる神秘の島、屋久島を歩く 2日目

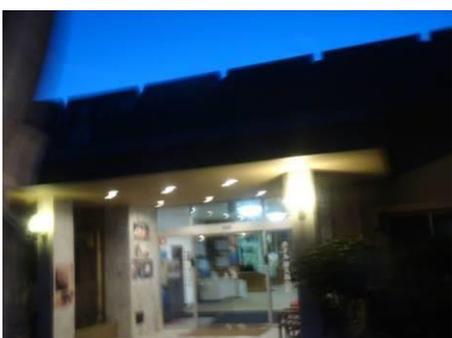
開 催 日：2024年5月29日（水） 晴れ
縄文杉コース参加者：熊坂（S/L） 奈良 河野 栗田 市村 三田 工藤 7名
屋久杉ランドコース参加者：岩元（L） 小田 高橋友 玉利 高津佐 越後 斉藤厚 7名

縄文杉コース参加者は11時28分、屋久島の森の主・縄文杉に到着。推定樹齢2000年～7200年、縄文時代からここで生きてきた歴史、樹高25.3m、胸高周囲16.4mの巨樹に圧倒されました。



3時10分起床～縄文号 4時14分～5時42分 荒川登山口

紀元杉205号室、同室の三田さんと3時10分に起床。星空が広がり、灯りが見えるのは川向こうの民家のところだけ。山岳環境保全協力者証（1000円）など登山準備をして、食堂のところに準備された朝昼弁当をリュックに詰め、3時55分に民宿を出ました。Aコープ前バス停へ、私たち7人と同じ民宿の若い男性1人、他の民宿から出てきた若い男女2人。暗闇で待つこと数分、バスが来ました。工藤さんと乗り込もうとすると運転手さんに「このバスは乗り合いですよ」と言われ、「貸し切りバスのはず」と思って乗るのをやめました。「乗らなければいけなかったのでは」とみなさん動揺。若い男性は頭を抱えてしまいました。男女2人組に声を掛けたら「民宿の人がバスは縄文号と言っていました」と落ち着いた表情。心配した岩元さんが、民宿から出てきました。そうこうしているうちに大型バスが到着、フロントガラスに「縄文号」と表示されています。4時14分、バスに乗り込みました。途中、民宿前など数カ所で登山者や登山ガイドを乗せてバスは満席。海岸線を南下してから山間部へ入り5時42分、荒川登山口に到着しました。



朝食タイム 登山口に車両基地 局登山ガイドがコース説明

登山口には、写真には写っていませんがすでにバスやタクシーが数台駐車していました。バスを下りて、私たちの登山ガイドの局（つぼね）隆弘さんからあいさつを受け、空きスペースで朝食タイムです。登山口には車両基地があり、ディーゼル機関車とトロッコが格納されていました。食事が終わるころには、登山口に到着するバスがさらに増えて駐車場は満車状態。ストレッチをして、局ガイドからコース説明を受け、荒川登山口案内板の前で出発写真撮影。標高600mの荒川登山口からトロッコ道を8km歩いて標高930mの大株歩道入口へ。そこから山道を2.5km、標高を380m上げて標高1310mの縄文杉までのコース。帰りは同じ道を下りてきます。「やや健コース」+「健脚LV1」の健脚LV3コースでしょうか。



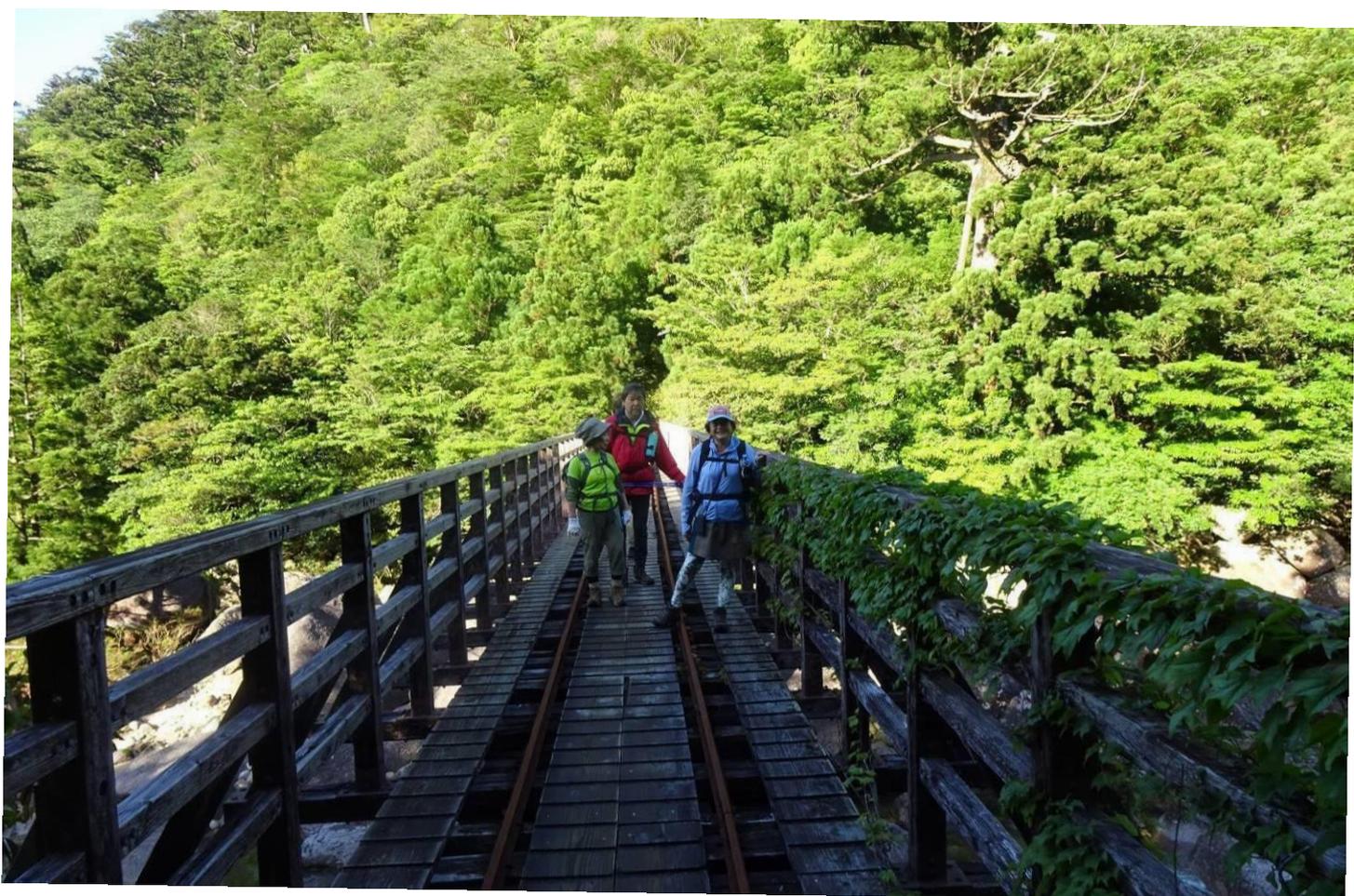
登山口 6時7分～杉板が敷かれたトロッコ道～右下は安房川

バスやタクシーから降りた登山者が、次から次へと縄文杉をめざして出発していきます。私たちが6時7分にスタート、17時発の帰りのバスに間に合うように16時30分に戻る予定です。杉板が敷かれたトロッコ道を進みます。杉板の隙間から川面が見える橋を渡り、トンネルをくぐります。「帰りはこのトンネルが見えたらゴール間近です」(局ガイド)。右下は深い渓谷の安房川、左は一枚岩の花崗岩。ウグイスの鳴き声が聞こえ、白いガクアジサイが咲いていました。右前方遠くに見えるのは、形の良い山容ですので愛子岳でしょうか。大きな杉の木が表れ、局ガイドが「樹齢1000年の杉はこのくらいの大きさで、幹直径1.5m以上が目安。樹齢1000年以上の杉を屋久杉、それ以下は小杉と言います」と説明してくれました。



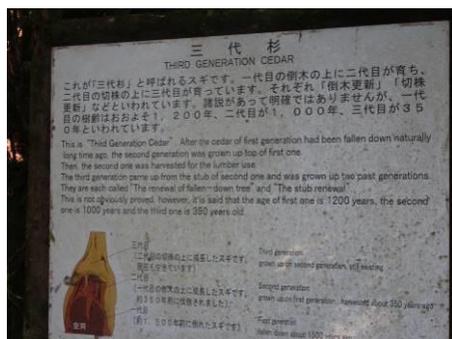
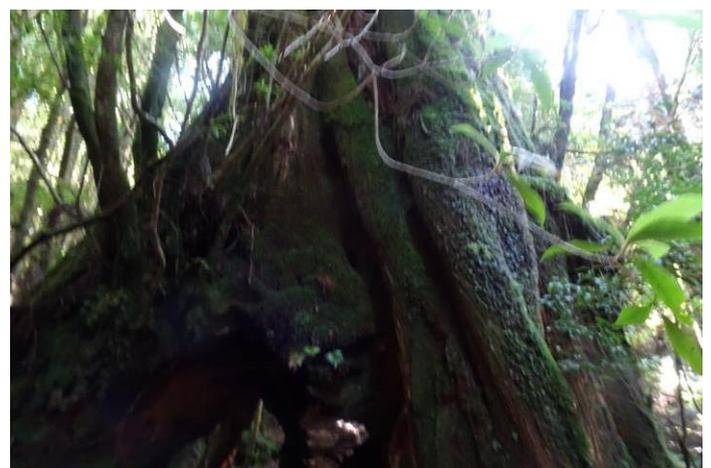
苔むす森～緩やかな上りトロッコ道～線路分岐～小杉谷橋

屋久杉から数分歩くと苔むす森・「もののけ姫」の世界が広がっていました。緩やかな上りトロッコ道を歩いていくと線路が分岐。「集落が二つありここで分かれていた」とのこと。掲示板があり、「ランプ点灯中は、トロッコが走っています。接近したら線路脇に退避してください」と書かれています。落下防止の柵がある小杉谷橋を渡ります。下は花崗岩がゴロゴロの激流、新緑の渓谷景観を楽しんで橋を歩いてくる3人をパチリ。落下防止の柵がない橋が多くて橋上写真を撮れなかったのですが、ようやく1枚撮れました。



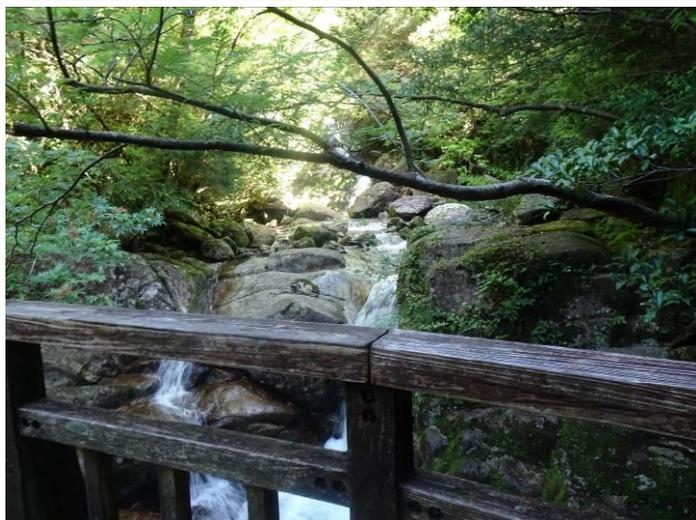
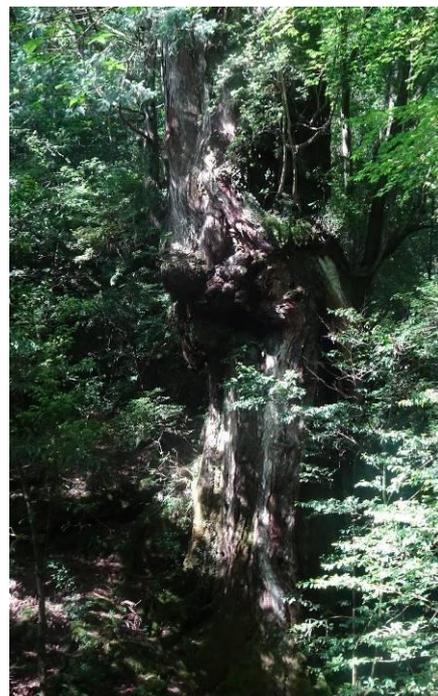
小杉谷・石塚集落跡～7時33分 トイレ場所で小休憩～三代杉

小杉谷橋を渡り、時刻は7時丁度。少し進んだところに「小杉谷・石塚集落と小杉谷小中学校」跡がありました。案内板に「1923年（大正12年）、木材搬出のため森林鉄道が敷設され国有林経営の前進基地として誕生。最盛期の1960年には540人が生活する林業集落となり、1970年の小杉谷事業所閉山とともに半世紀の歴史を閉じた」と書かれていました。「屋久杉と共に」の石碑もありました。左下に安房川を見てトロッコ道をさらに進み7時33分、トイレ場所に着き小休憩です。この手前に楠川分かれがあったようですが・・・。水分補給もしてスタート、少し進んで三代杉に对面です。三代杉とは、一代目の倒木の上に二代目が育ち、二代目の切株の上に三代目が育っています。一代目の樹齢は1200年といわれています。



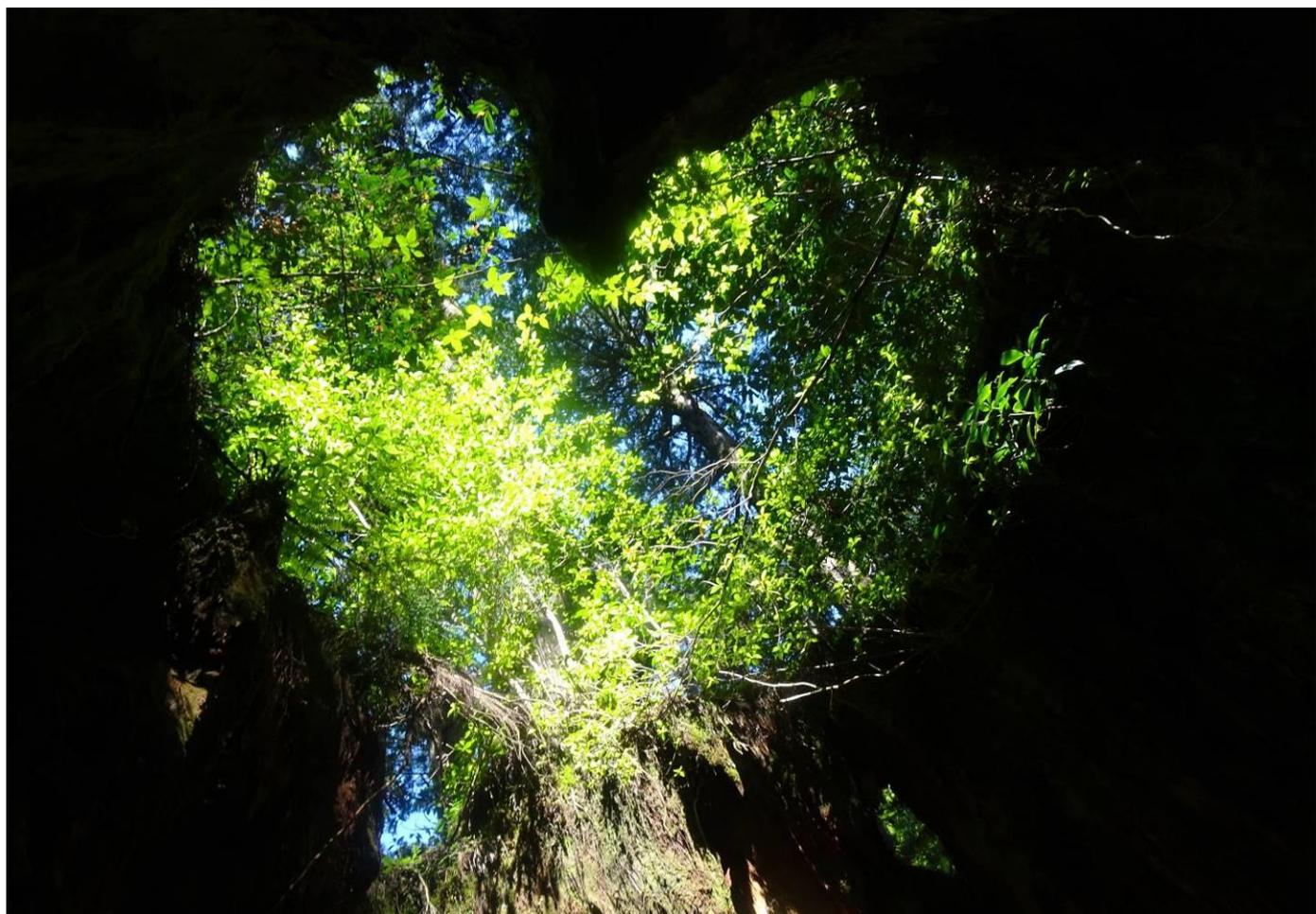
トロッコ道ショートカット～仁王杉阿形～8時46分 大株歩道入口

入り口がふさがれている横穴がありました。「戦争中に使われた防空壕」とのこと、こんな山奥にまで逃げ込んで来たのかと思いました。トロッコ道をショートカットして左の山道を上って行きます。左急斜面にヤクシカが草を食べていました。再びトロッコ道に出て、30分ほど歩くと山側に仁王杉の阿形が立っていました。畔形杉は、2000年の台風で倒れてしまっていました。左奥に屋久島で4番目に高い翁岳が見えました。トロッコ道の勾配が少し急になってきて8時46分、トロッコ道終点の大株歩道入口に到着。多くの登山者がここでトイレ休憩をして登山に備えていました。私たちも休憩をして水分補給をしました。



大株歩道入口9時~9時23分 人気スポットのウィルソン株

人気スポットのウィルソン株までは0.6km、大株歩道入り口を9時にスタート。左下に深く切れ込んだ沢沿いの階段を上って行きます。沢の水の流れがとてもきれいです。木の根の張った上り道、階段場所を何回か上り9時23分、切り株空間がハート形で恋が叶うというウィルソン株に到着。早速切株の中へ、8畳部屋ぐらいの広さです。順番待ちで写真撮影、差し込む光の具合などでハート型の見映えが違います。



木段や岩場～サルの群れ～10時15分 昼食タイム～大王杉

ウィルソン株の由来は「イギリス人の植物学者ウィルソン 博士が屋久島に植物調査に訪れ、紹介されたことからウィルソン株といわれるようになった」(局ガイド)とのことでした。急な木段や岩場などを上ってきました。何やら騒がしい鳴き声、木の上や沢斜面などにサルが群れています。再び山容のきれいな翁岳が見えました。さらに上り10時15分、ベンチのあるところで早めの昼食タイム。お弁当は2段重ねでおにぎりは3つ入っています。熊坂さんが昼食後、近くの名水スポットでペットボトルに水補給。少し上ったところに屋久島で一番大きいヒメシヤラの木が、その先の木段のところに大王杉が立っていました。



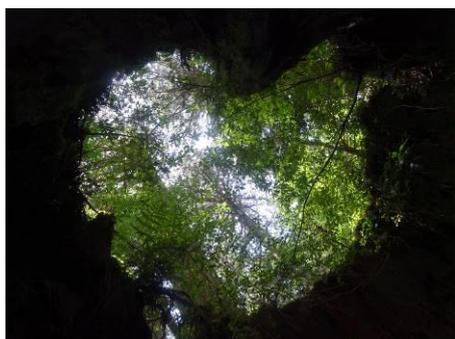
樹高周囲11.1m、樹高24.7mの大迫力～夫婦杉～木段

大王杉は、1966年に縄文杉が発見されるまでは最大の杉として知られていたとのこと。樹高周囲11.1m、樹高24.7mの大迫力、樹齢は推定3000年です。少し上ったところに枝がつながった2本の杉、夫婦杉が立っていました。朽ちた杉がいろいろな形に見えます。この杉は馬のようです。白いサクラツツジの花が咲いていました。もう少しで縄文杉とご対面、最後の階段でしょうか、木段を上げて行きます。



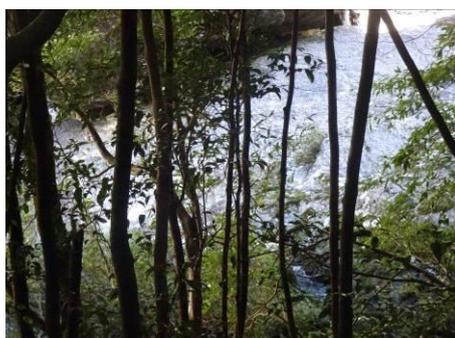
11時28分 縄文杉に到着 11時50分~13時45分 大株歩道入口

11時28分、展望デッキの木段を上って縄文杉に到着です。縄文杉は屋久島の森の主、推定樹齢2000年~7200年といわれる巨樹はどんな歴史を見てきたのでしょうか。圧倒されるような歴史と大きさ、歩いて上って来たからこそ感動です。樹高25.3m、胸高周囲16.4mの巨樹で、直径は土俵の4.55mより大きい5.2m。根が傷むことがないように1996年に木製展望デッキがつけられたため、縄文杉までの距離は20mほど。それでも大王杉を上回る大きさを実感できました。記念写真を撮って11時50分下山開始。キリンやゾウの形をした切株などを楽しみながら13時45分、大株歩道入口へ下りました。



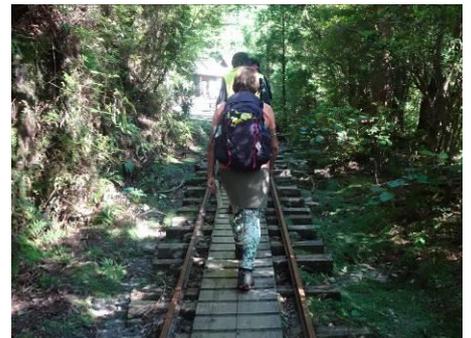
大株歩道入口 14時~小杉谷・石塚集落跡~トンネルの灯り

大株歩道入口で水分補給をして14時、トロッコ道を下ります。上ってきたときには気がつかなかった景色も見えます。山肌にアオダイショウがニョロニョロ、「これでヤクシカとサルとアオダイショウを見ましたね」(局ガイド)。正月の注連飾りに使われるウラジロが群生していました。朝はショートカットしたトロッコ道も歩き14時57分、トイレ場所まで下りてきました。一息入れてスタート、トロッコ道は右下の安房川に沿って緩やかな下り道。15時31分、「小杉谷・石塚集落と小杉谷小中学校」跡に到着して小休憩。敷地跡に下りてみました。NHKのドキュメンタリー番組で、この場所で村民総出の運動会をしている映像を見たことがあります。敷地の一角に「小杉谷閉山五十周年記念祭」の標柱が立っていました。最後の休憩をしてスタート。朝渡ってきた落下防止策のある橋を渡り、トロッコ道を下って行きます。「屋久島を歩く2日目」もあとわずか。「屋久島の悠久の時の流れ」と「自身の時の流れ」、「小杉谷・石塚集落村民のその後50年」などなど、いろいろなことを思い起こしながら歩いていると、トンネルの灯りが見えてきました。



16時17分 荒川登山口～民宿～食事処「樹」で夕食懇親会

トンネルを抜けて最後の橋を渡り、少し上がったところが荒川登山口。時刻は16時17分、空きスペースでクールダウン。3万8000歩、10時間10分の行動時間でした。待合室の掛け時計は16時30分、局ガイドの配慮あるペース配分で予定時間内に戻ってこられました。バス縄文号はほぼ満席になり16時55分に発車、山道をグングン下って行きます。何か所かで道路の拡幅工事が行われていました。海岸線を北上して18時10分、Aコープ前バス停に到着。民宿に帰って急いで入浴、自動車で送っていただき19時、お食事処「樹(いつき)」へ。屋久杉ランドコース組は、すでに着席していて話が弾んでいます。前日の夕食懇親会からほぼ24時間ぶりの再会です。真辺登山ガイドを囲むテーブルはビールで乾杯。トビウオの唐揚げやお刺身に舌鼓を打ち、「屋久島には登山ガイドが160人余いる」(真辺さん)、「屋久杉ランドコースも鎖場などがあり楽しかった」(高津佐さん)などと話が弾み、楽しい懇親会となりました。



(いちむら記)